

## IV 観 光

### 1 概 況

令和6年度における本県の観光客数は、約4,128万9千人となり、令和5年度と比較して約262万人増、率にして106.8%となった。

本県の観光客数は、調査を開始した昭和38年度以降、空港や高速道路等のインフラ整備の進展に伴い、概ね順調な伸びを示し、平成4年度には初めて4,000万人を超えた。その後は、景気の低迷等の影響を受け減少傾向が続いたが、平成16年度に「おいしい山形」デスティネーションキャンペーンを展開し、約4,226万9千人と当時の最高を記録した。それ以降は、再び減少傾向が続くなか、平成21年度は「天地人」、「おくりびと」効果とともに、高速道路のETC割引の効果もあり、4,100万人を超えた。

平成23年度は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、交通機関の一部途絶や、出控え、東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害による大きな影響により、3,500万人台と大きく減少したものの、その後の官民一体となった誘客の取組みにより観光客数は回復し、平成26年度には、山形デスティネーションキャンペーン（山形DC）の展開をはじめ、東北六魂祭、国際青年会議所アジア太平洋会議（JCI ASPAC）山形大会及び全国育樹祭などの取組みにより、初めて4,500万人を超え、その後も山形DCの効果を活かした春や冬の「山形日和。」観光キャンペーンの展開や、県内各地の雪まつり・イベント等の新たな開催、「美食・美酒県 山形」の積極的な情報発信を進めてきた。

しかしながら、国内における新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度は2,700万人台と大幅な減少となった。その後も、新型コロナウイルスの影響が長引く中で、令和3年度から令和4年度には、東北デスティネーションキャンペーン（東北DC）、南東北春の観光キャンペーン（ポストDC）の展開、県内での宿泊・日帰り旅行の割引キャンペーンや「全国旅行支援～やまがた旅割キャンペーン～」等の観光需要喚起策の展開により、観光復活に向けた誘客の促進に取り組み、令和4年度は3,600万人台まで回復した。

令和6年度は、7月25日から大雨により最上・庄内地域を中心に大きな影響を受けたものの、JR東日本と連携した「山形県春の観光キャンペーン」や大雨被害からの復興を図るための「冬こそやまがた 最上・庄内泊まって応援キャンペーン」等の展開に加え、インバウンドの本県受入延人数が2年連続で過去最高となったことなどにより、前年度と比較し、約262万人（6.8%）の増加となった。

表4-1 本県観光客入込数の前年度比較

（単位：千人）

| 区分   | 令和6年度    | 令和5年度    | 対5年度増減率 | 対5年度増減  |
|------|----------|----------|---------|---------|
| 観光客数 | 41,289.7 | 38,664.0 | 6.8%    | 2,625.7 |

資料：県観光文化スポーツ部「令和6年度 山形県観光客数調査」

## 2 県内・県外客別観光者数の動向

観光者を県内客・県外客別にみると、県内客は約 2,338 万人（対 5 年度 5.6%（約 123 万 7 千人）増、構成比 56.6%）、県外客は約 1,790 万 2 千人（対 5 年度 8.4%（約 138 万 8 千人）増、構成比 43.4%）となっている。

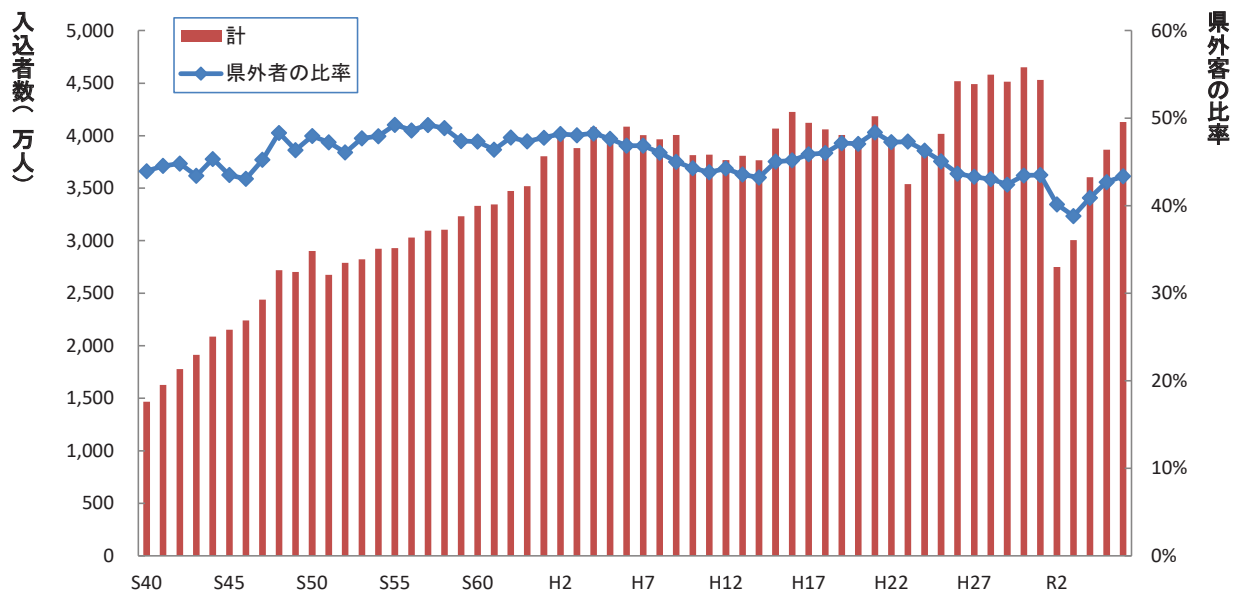
表4－2 県内客・県外客別観光者数の前年度比較

（単位：千人）

| 区分     |     | 令和 6 年度  | 令和 5 年度  | 対 5 年度増減率 |
|--------|-----|----------|----------|-----------|
| 観光者数   |     | 41,289.7 | 38,664.0 | 6.8%      |
| 内<br>訳 | 県内客 | 23,387.2 | 22,150.2 | 5.6%      |
|        | 県外客 | 17,902.5 | 16,513.8 | 8.4%      |

資料：県観光文化スポーツ部「令和6年度 山形県観光者数調査」

図4－1 山形県の観光入込み客数と県外客の構成比



資料：県観光文化スポーツ部「令和6年度山形県観光者数調査」

### 3 観光地類型別観光者数の動向

観光地類型別の構成比は、「温泉観光地」が約 836 万 8 千人（構成比 20.3%）、「道の駅」が約 949 万 4 千人（構成比 23.0%）、「その他の観光地」が約 1,436 万 1 千人（構成比 34.8%）となっており、これらの3類型で全体の78.1%を占める。

令和5年度比では、「スキー場」が118.9%と大きく増加した。

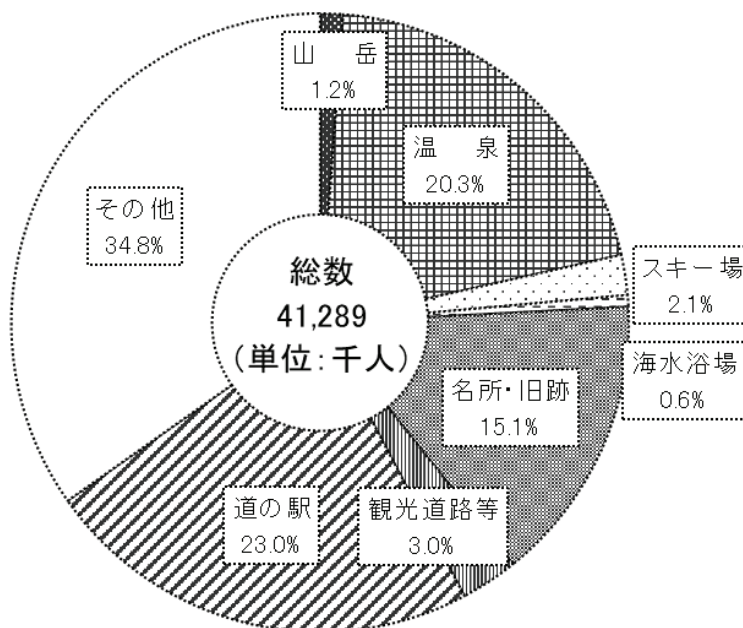
表4-3 観光地類型別上位の前年度比較

|     | 令和6年度   | 構成比   | 令和5年度   | 構成比   |
|-----|---------|-------|---------|-------|
| 第1位 | その他の観光地 | 34.8% | その他の観光地 | 33.7% |
| 第2位 | 道の駅     | 23.0% | 道の駅     | 22.1% |
| 第3位 | 温泉観光地   | 20.3% | 温泉観光地   | 21.0% |

資料：県観光文化スポーツ部「令和6年度 山形県観光者数調査」

※「その他の観光地」には、「産直施設」、「観光物産施設」、「美術館・博物館」などが含まれている。

図4-2 観光地類型別構成比（令和6年度）

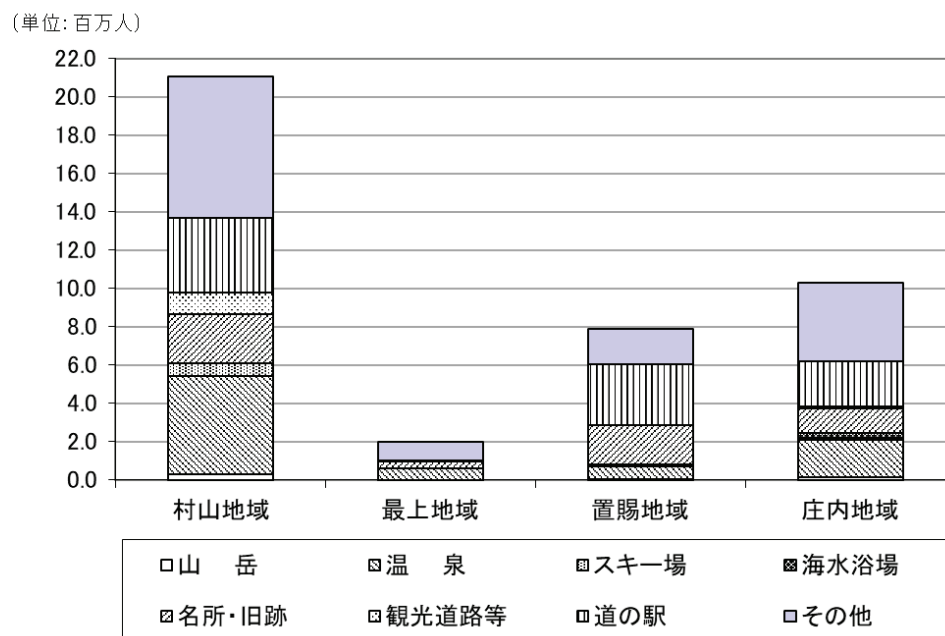


資料：県観光文化スポーツ部「令和6年度 山形県観光者数調査」

## 4 地域別観光者数の動向

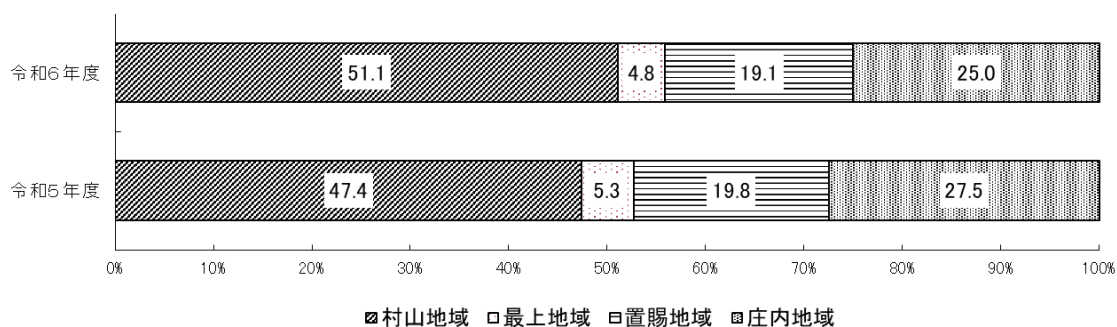
県内で観光者数の最も多い地域は、村山地域の約 2,109 万 5 千人（対 5 年度 15.1%増、構成比 51.1%）、次いで庄内地域の約 1,032 万 5 千人（対 5 年度 3.1%減、構成比 25.0%）、置賜地域の約 787 万人（対 5 年度 3.0%増、構成比 19.1%）、最上地域の約 200 万 1 千人（対 5 年度 2.1%減、構成比 4.8%）の順となっている。

図4－3 地域別観光者数



資料: 県観光文化スポーツ部「令和6年度 山形県観光者数調査」

図4－4 地域別観光者数の構成比



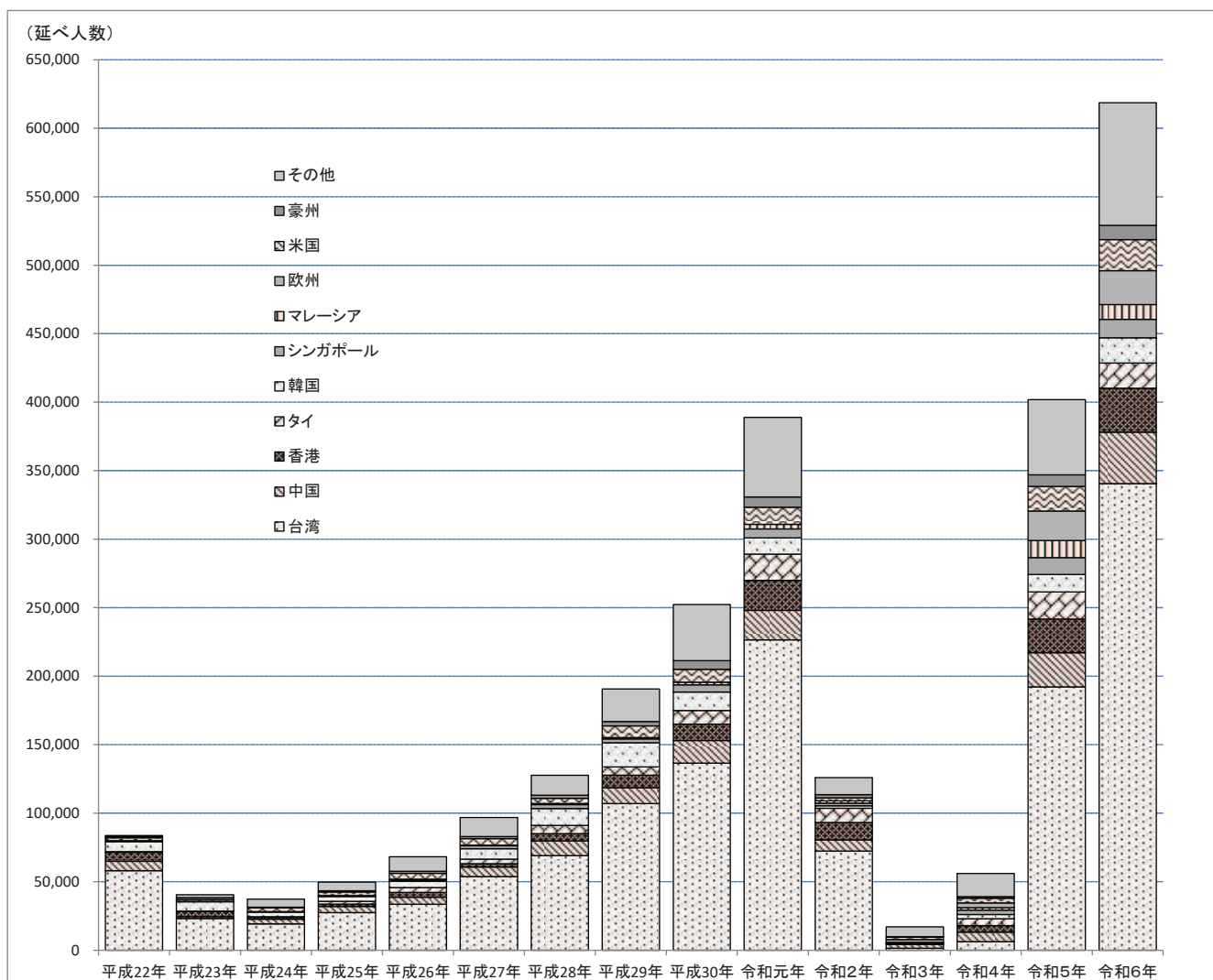
資料: 県観光文化スポーツ部「令和6年度 山形県観光者数調査」

## 5 外国人旅行者の状況

県の「外国人旅行者県内受入実績調査（令和6年1月～12月）」によると、山形県内の外国人旅行者受入延人数（宿泊者数＋立寄者数）は618,549人（前年比153.9%、216,601人増）であり、令和5年に引き続き2年連続で過去最高となった。

国・地域別の状況を見ると、台湾からの受入延人数は340,563人（前年比177.2%、148,376人増）、中国からの受入延人数は37,643人（前年比151.1%、12,731人増）、香港からの受入延人数は32,010人（前年比129.7%、7,336人増）、タイからの受入延人数は18,323人（前年比92.6%、1,462人減）、韓国からの受入延人数は18,551人（前年比145.7%、5,819人増）であった。

図4-5 外国人旅行者県内受入実績の推移



- ① 宿泊者数:観光庁宿泊旅行統計(確定値、従業者数10人以上の施設が対象)
- ② 立寄者数:立寄35市町村114地点へのアンケート調査 ※県イン・アウトバウンド推進課調べ(確定値)
- ③ 「欧州」はイギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スペインの合計。
- ④ 「その他」は国籍不明を含む。

## 6 山形県の宿泊者数

### (1) 延べ宿泊者数

観光庁の「宿泊旅行統計調査（令和6年1月～12月）（確定値、従業者数10人未満の宿泊施設を含む）」によると、山形県の宿泊者は、約488万人泊であり、前年に比べ6.8%増加した。

全国での位置付けは、全国33位（前年34位）、東北4位（同4位）であった。

### (2) 外国人宿泊者数

観光庁の「宿泊旅行統計調査（令和6年1月～12月）（確定値、従業者数10人未満の宿泊施設を含む）」によると、山形県の外国人宿泊者数は約25.6万人泊であり、前年に比べ43.3%増加した。

全国での位置づけは、全国35位（前年37位）、東北5位（同5位）となっている。

図4-6 都道府県別延べ宿泊者数

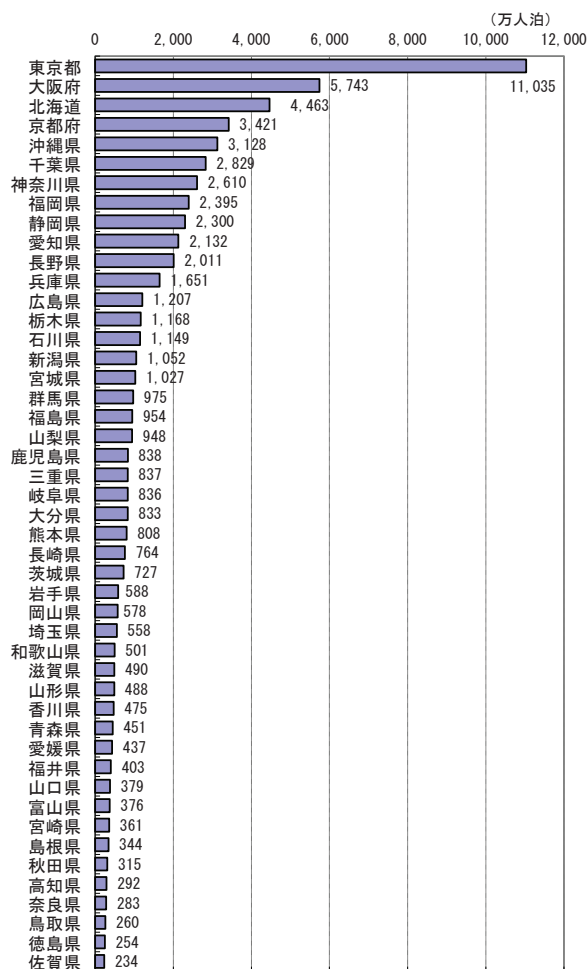
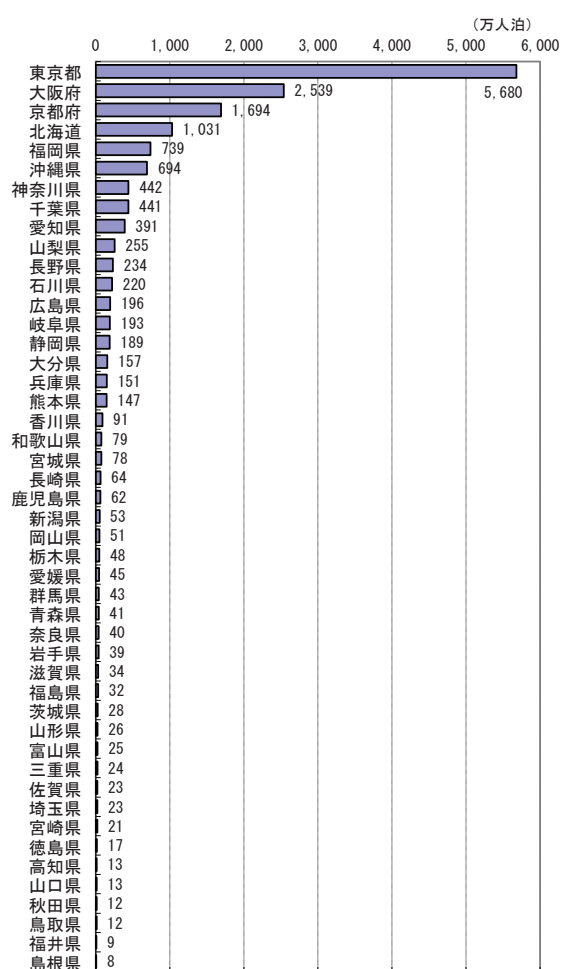


図4-7 都道府県別外国人延べ宿泊者数



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」（確定値、従業者数10人未満の宿泊施設を含む）